

# 教職員の健康を守り、時間外勤務の縮減を

## 休養室への空調整備、 専門性を考慮した人事異動などを訴え

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7 11  
府教育会館704号  
(TEL)6765-8904  
(FAX)6765-8905

### 課別交渉

(福利課・教職員企画課・教職員人事課)

2月2日、大障教は福利課・教職員企画課・教職員人事課との課別交渉を実施しました。交渉には11分会から19人が参加し、休養室の整備、臨時技師(看護師)の速やかな賃金改善、子育て・介護への制度の充実、聴覚支援学校の専門性を考慮した人事異動等を、職場の実態も示して訴えました。交渉の主なやりとりを紹介いたします。

### 教職員の休養室整備

寝屋川支援学校分会は、エアコンが無いために夏は朝から室温が30℃を超え、休養できる環境では無い男性用更衣室兼休養室の実態を訴えました。



寝屋川支援学校  
分会 伊野さん

### すべての教職員に休憩時間の保障を

光陽支援学校分会は、スクールバス下校便や放課後デイサービスの送迎車の誘導を多くの教職員が行っていること、また、休憩時間を返上して割り当てられた清掃業務を行

福利課は、各学校の休養室の設置状況の把握に努め、法令の基準に準拠した適切な設置を働きかけてまいりたい。休養室の備品等の充実については、関係課と連携していくなどの説明にとどまりました。大障教は、学校によって休養室の環境に違いがあることはおかしいと主張し、職員休養室のエアコン設置をすすめるべきだと訴えました。

### 臨時技師(看護師)の賃金改善を早急に

光陽支援学校分会は現在の賃金水準は、医療現場での豊富な経験を持つ30代〜50代の看護師が最も勤務しづらい条件だと述べ、他での正規雇用に切り替えるかどうか契約更新のたびに当事者が悩んでいる実態を訴えました。

教職員企画課は、(臨時的任用職員の初任給について)人事委員会等との調整が必要となるが、学校における任用の状況等を踏まえつつ、研究してまいりたいなどと説明しました。大障教は、研究の日程的なめどを示すように求めましたが、教職員企画課は明言しませんでした。

### 子育て・介護支援のための制度の充実、 不妊治療に対する手立て

女性部は、インフルエンザなどは最低でも5日は登所・登校できない。子の看護休暇の日数を子ども的人数に見合ったものにしてほしい。ヘルパーを使えないケースや、ヘルパーが認められるまでの期間の介護は家族で担っているなどの現場の声を紹介し、子の看護休暇の一人当たりの日数増や、短期介護休暇の拡充等を訴えました。また、不妊治療を受けている方の精神的負担について述べ、近畿で何の制度も無いのは大阪だけ、何らかの手立てを講じてほしいと訴えました。

教職員企画課は、より府民理解を得られる制度にする観点から、民間状況も一定反映されている国制度を基本に見直しを行い、平成22年度から実施しているところであり、その他の休暇の拡充や新設は困難。介護休暇制度については、これまで期間延長等の改善や短期介護休暇を創設するとともに、介護休暇制度の1回の取得日数の制限を平成29年4月1日から撤廃したところなどの説明にとどまりました。

### と主張しました。

教職員企画課は、校長は休憩時間を明示し当該時間に取得できない場合には、他の時間帯に与えるなど、適切な対応を取ること。また、取得しやすい環境づくりに努めることとして各学校に指示していると説明しました。大障教は、学校長への指示だけでは根本的解決にはならない。休憩時間が取れるための条件整備は府教委が行うべきだと主張しました。



光陽支援学校  
分会 中崎さん

ました。大障教は、学校長への指示だけでは根本的解決にはならない。休憩時間が取れるための条件整備は府教委が行うべきだと主張しました。

(裏面に続く)

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou\_1@mtb.biglobe.ne.jp



安倍内閣が今の国会で成立をねらう「働き方改革」一括法案の審議で、首相が自らの答弁を撤回して陳謝する事態となりました。問題となったのは、実際に働いた時間にかかわらず、事前に決めた分だけ働いたとみなされる「裁量労働制」です。

1月29日の衆議院予算委員会で安倍首相は、厚労省の2013年度労働時間等総合実態調査で、裁量制の労働者は1日9時間16分、一般労働者は9時間37分働いているとの数字を示し、裁量労働制は時間短縮につながると強弁していました。しかし、この調査は労働者全体の平均値ではなく、法定時間に時間外労働を加えて一般労働者の労働時間を長く見せかけるなど加工されたものでした。そのため野党側は、答弁した労働時間データには根拠が無いと首相を追及し、撤回を求めていたのです。

首相は、2月14日に行われた予算委員会で自民党議員の質問に対し、私の答弁を撤回することにも、おわび申し上げたい」と陳謝し、精査が必要になった」と根拠のない数字を使って答弁したことを認めました。

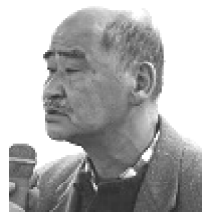
そもそも裁量労働制は、多くの労働組合から「定額働かせ放題などと批判されているもので、これまでの政府系調査でも、導入後は労働時間が長くなるという結果が出ています。働き方改革」法案では、企画・専門業務に限定されているこの裁量労働制を、営業職にまで拡大しようとしています。

首相の答弁撤回によって、裁量労働制の導入が労働時間の長時間化につながることははっきりしました。大前提が崩れた以上、法案そのもの見直しが必要です。

(表面よりの続き)

### 人事異動と教職員の業務負担

堺聴覚支援学校分会は、聴覚支援学校の教員に求められるスキルについて述べ、ようやく育った教員が異動でいなくなり、学校の専門性が低下していると訴えました。また、聴覚支援学校以外の学校では、聴覚障害のある教員への情報保障の環境が整っておらず、そういう職場に聴覚障害の教員を希望に反して異動させることは人権問題だと訴えました。



堺聴覚支援学校分会 森さん

人事に関する調査、ヒアリング等を通じ、本人の通勤事情等、個々の事情についてもできる限り把握したうえで、校長・准校長の具申をもとに適切に行ってまいりたい」などの説明にとどまりました。大障教は、希望のある教員については、かつて勤務した学校への異動が可能となるような制度化が必要だと主張しました。

大阪北視覚支援学校分会は、歩行訓練指導の資格取得のための研修に出席する教員が、半年間職場を離れているにもかかわらず、代



大阪北視覚支援学校分会岡村さん

### 「視覚障害生活訓練等指導者養成課程」

#### 受講者の代替配置

代替職員が配置されていないため、現場の負担となっている実態を訴えました。教職員人事課は「標準法及び国の加配項目に規定がないことから、配置するのは困難」と説明しました。

### 技術職員の「退職不補充・民間委託化」による

#### 業務負担の解消

生野支援学校分会は、大阪市立校時代は管理作業員が担っていた業務が府移管後に民間委託化され、校内・学校周りの清掃や、校内設備の修繕・交換、公用車(自転車)の管理・修繕などの業務を、新たに教職員が担わざるを得なくなった実態を訴えました。



生野支援学校分会岸上さん

教職員人事課は、「平成29年度より校務員業務委託

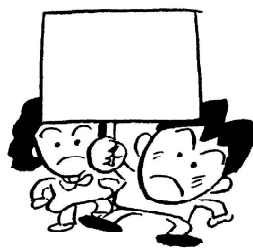
生野支援学校分会は、大障教は、民間委託化で教職員の業務負担が増えたことは明らかで、常駐1名配置の是非も含め、抜本的な検討を行うべきだと主張しました。

## 全国障害児学級・学校交流集会に参加して(感想その4)

### 丸山先生のお話に

#### 心もほっこり

### 子どもたちの笑顔を見るとつらさも吹き飛び



「総括寄宿舎指導員」の選考基準改善  
寄宿舎教員部は、「総括寄宿舎指導員」の選考について、教職員を選別するのではなく、賃金改善のために設けられた本来の趣旨を守るよう訴えました。



寄宿舎教員部 白木さん

教職員人事課は「選考については、公正・平等に行っている」「総括職については、自らの担当業務を遂行しつつ、担うべき業務の取りまとめ等 指導助言・連絡調整・人材育成といった職

開会全体会のいろんな企画は盛りだくさんで楽しめました。現地企画は、あるある……」と言いたくなる内容で、職場でもこの企画、機会があればしたいと思いましたが、丸山先生の講演はこれまで何度か聞きました。が、今回も心あたたまる、ほっこりした内容でした。(中央聴覚支援学校分会 近友順子)

性教育について、一般中学校・高等学校での授業経験はありましたが、支援学校では経験が浅く、悩んでいたのが、今回「性教育を学ぼう」を受講することができて本当によかったです。性教育は知識としてはあっても、素直に受け止める子どもたちにとどのよう伝えたらよいのか、難しい分野だと思っていました。しかし、自分の体のこと、自分以外の人の体のことに興味を持つことは悪いことではなく、むしろ成長してきた証

だと改めて感じ、思っていた以上にまっすぐに伝えてもいいのかもしれないと思いました。知らないから、興味があるから、気になるから、触れたり、見たりすることかもしれない、ということも考えて授業づくりをするのと、悩んでいた答えが見つかるのかもしれない、と思えました。今まで、性教育をするのに億劫になっていました。が、がんばってみようと思えました。

午後からはさまざまな学校の事例を聴きました。私自身しんどいな、つらいなと感じることも多かったのですが、自分はまだまだだな、もつとがんばろうと思えました。いろいろな考え方や支援の仕方があります。子どもを一番に考え、寄り添う姿に改めて自分を見つめ直すきっかけになりました。ついつい自分のペースになってしまいがちですが、待つということ、子ども様子をよく見ることが大切なのだと思います。ある保護者の方が「うちの子どもも同じ障がい

城田愛美

(交野支援学校四條畷校分会)